

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 072	提案機関名 畜産技術センター 普及指導課
要望問題名 本県の採卵鶏経営にあったアニマルウェルフェアを推進するための研究 (鶏舎構造、飼養方法、鶏生体への作用、鶏卵販売の付加価値化等)	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 経済のグローバル化による畜産物の輸入量の増大や消費者の多様なニーズに対応するためには、安全安心な畜産物の生産は言うまでもないが、今後は欧米を中心に広まりつつある、家畜の健康と快適性にに基づき、生産性の向上を図っていく必要がある。 そこで、畜種の中では比較的取り組みやすいと思われる採卵鶏において、消費地に近い本県にあった、「アニマルウェルフェア」を取り入れた飼養環境の検討を行っていただきたい。 内容的には、鶏舎構造の検討にとどまらず、従来の飼養形態と比較した中での、鶏へのストレス軽減作用や、飼料効率及び増体量についての調査、さらにそれが、鶏卵の販売戦略につながる可能性があるのか、についても提示していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名 畜産技術センター	担当部所 企画指導部企画研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 国産エンリッチドケージによる飼養管理技術の確立(平成30～32年度)	
対応の内容等 2020年の東京オリンピックでは調達する食材にGAP認証が求められ、認証基準にはアニマルウェルフェアに対応した飼養が求められており、今まで以上に家畜の飼養方法についてクローズアップされる機会が増えることが予想されます。 養鶏では過去に既存バタリーケージを改良した家畜福祉ケージによる試験を実施してきましたが(平成17～25年度)、国内ケージメーカーによるEU基準を満たすエンリッチドケージはなく、輸入品は高価で資材調達期間も長く、需要に対応できない可能性があります。そこで今年度よりメーカー、大学と協力してエンリッチドケージの製品化を目指し当所で飼養し作業性、生産性及び鶏の行動調査から改良点を明確にすることにより国内の現場に合致したケージシステムの開発に取り組んでいます。	
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考 ※EU基準エンリッチドケージとは、床面積1羽750cm ² 以上、高さ45cm以上でケージ内に巣箱、止まり木、砂浴び場、爪とぎ具を有するケージ。	